

2016年度冬版L2-Tech水準表の主な変更点 (別紙) ver.1.01

No		区 分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年度夏版L2-Tech水準表					2016年度冬版L2-Tech水準表 (変更点:赤字)				
2016年度夏版	2015年度冬版 (案)					クラス		測定単位		その他	クラス		測定単位		その他
						条 件	能 力	単 位	名 称		条 件	能 力	単 位	名 称	
A-02-001	A-02-001	産業・業務 (業種共通)	ターボ冷凍機→ HFCターボ冷凍機	・ 設備・機器等の名称の変更 ・ 原理・しくみの変更	・ 新たに拡充する自然冷媒ターボ冷凍機と区別するため ・ 同上 (使用している冷媒の違いの説明を追加)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	-	期間成績係数(IPLV)	名称: ターボ冷凍機  原理・しくみ: 水を熱源としたヒートポンプ方式の冷凍機。	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	-	期間成績係数(IPLV)	名称: HFCターボ冷凍機  原理・しくみ: 蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒を使用している。
A-02-003	A-02-004	産業・業務 (業種共通)	空冷ヒートポンプクーラー	・ 指標 (測定単位) の追加	・ COPと比較しIPLVのほうが、より実用に近い測定単位となるケースもあると判断したため (試験条件および計算方法も変更となるが、準拠する規格は変更なし)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	-	期間成績係数(IPLV)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)
A-06-004	A-09-004	産業・業務 (業種共通)	高温水ヒートポンプ (水熱源・過式)	・ クラス (条件) の追加 ・ 指標 (試験条件) の追加 ・ 指標 (計算方法) の追加	・ 当該クラスについて、一定の市場規模が見込めることを確認できたため ・ クラス (条件) の追加に伴い、それに対応する標準的な試験条件を設定する必要があったため ・ クラス (条件) の追加に伴い、それに対応する標準的な計算方法を設定する必要があったため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	水熱源運転 70°C、50°C、38.6°C、50°C	-	-	成績係数 (COP)	計算方法: COP=α/P  COP:成績係数 α:定格能力[W] P:定格消費電力[W]  試験条件: 成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。  温水出口温度: 70°C 熱源水入口温度: 50°C 熱源水出口温度: 38.6°C 温水出入口温度差: 50°C
A-06-009	A-09-009	産業・業務 (業種共通)	蒸気再圧縮装置 (その他熱源・循環式) → 蒸気再圧縮装置	・ 設備・機器等の名称の変更 ・ 原理・しくみの変更	・ 当該設備・機器等の名称を、より標準的な名称に変更する必要があると判断したため ・ 当該設備・機器等の原理・しくみについて、より正確な説明に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	-	kWh/kg	消費電力量	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	-	kWh/kg	消費電力量	原理・しくみ 産業プロセス等で排熱を回収・再圧縮し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。
A-07-001	A-10-001	産業・業務 (業種共通)	ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	・ クラス (条件) の削除	・ 「循環保温」というクラス (条件) が業界標準でないことが確認できたため	循環保温	【加熱能力】 10kW以下 10kW超20kW以下 20kW超30kW以下 30kW超40kW以下 40kW超50kW以下 50kW超	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
A-09-002	A-14-002	産業・業務 (業種共通)	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	・ 指標 (試験条件) の変更 ・ 原理・しくみの変更	・ 指標の表記が不十分であると判断したため ・ 当該設備・機器等の原理・しくみについて、より正確な説明に変更する必要があると判断したため	-	【蒸発量】 1500kg/h未満 1500kg/h以上3000kg/h未満 3000kg/h以上7200kg/h未満 7200kg/h以上	%	ボイラ効率	準拠する規格: JISB8222-1993 原理・しくみ: 燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、業務用-産業用の幅広い業種で使用される。	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	【蒸発量】 1500kg/h未満 1500kg/h以上3000kg/h未満 3000kg/h以上7200kg/h未満 7200kg/h以上	%	ボイラ効率	試験条件: JISB8222-1993および公益財団法人日本小型蒸気ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」 原理・しくみ: 燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用-産業用の幅広い業種で使用される。
A-10-001	A-15-001	産業・業務 (業種共通)	ガスエンジンコージェネレーション	・ クラス (能力) の変更 ・ 原理・しくみの追記	・ 500kW以下のクラスにおいて、用途等の違いがみられるケースが多いことが判明したため ・ 当該設備・機器等の原理・しくみについて、より正確な説明に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	【発電出力】 35kW以下 35kW超500kW以下 500kW超750kW以下 750kW超1000kW以下 1000kW超2000kW以下 2000kW超3000kW以下 3000kW超	%	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	【発電出力】 5kW未満 5kW超10kW以下 10kW超25kW以下 25kW超35kW以下 35kW超250kW以下 250kW超500kW以下 500kW超750kW以下 750kW超1000kW以下 1000kW超2000kW以下 2000kW超3000kW以下 3000kW超	%	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表 (案)参照)	

No		区 分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年度版L2-Tech水準表						2016年度版L2-Tech水準表(変更点:赤字)					
2016年度 夏版	2016年度 冬版 (案)					クラス		測定単位		その他		クラス		測定単位		その他	
夏版	冬版 (案)					条 件	能 力	単 位	名 称			条 件	能 力	単 位	名 称		
A-10-003	A-15-003	産業・業務 (業種共通)	燃料電池コージェネレーション	・ 原理・しくみの変更	・ 当該設備・機器等の原理・しくみについて、より正確な説明に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	-	%	発電効率	原理・しくみ: ガス/石油/水素等を燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	-	%	発電効率	原理・しくみ: ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。		
A-11-002	A-16-002	産業・業務 (業種共通)	空気冷媒方式冷凍機	・ クラス(条件)の追加 ・ 指標(試験条件)の追加	・ 当該クラスについて、一定の市場規模が見込めることを確認できたため ・ クラス(条件)の追加に伴い、それに対応した標準的な試験条件を設定する必要があったため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	床面積(有効容積) : 1300m3規模	-	-	成績係数(COP)	試験条件: 成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度、床面積(有効容積)をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。なお、附属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを用いる。  庫内温度 : -60℃ 床面積(有効容積) : 1300m3規模		
A-15-001	A-20-001	産業・業務 (業種共通)	変圧器- 油入変圧器	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	W	全損失	名称: 変圧器 原理・しくみ: 電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	W	全損失	名称: 油入変圧器 原理・しくみ: 電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶縁油にて構成されている。		
A-15-001	A-20-002	産業・業務 (業種共通)	変圧器- モールド変圧器	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	W	全損失	名称: 変圧器 原理・しくみ: 電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度版L2-Tech水準表参照)	W	全損失	名称: モールド変圧器 原理・しくみ: 電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。耐熱絶縁電線とコイルを構成し、エポキシ樹脂でモールドされている。		
A-16-001	A-22-001	産業・業務 (業種共通)	窓ガラス- Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3)	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3) 新薬用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓ガラス 原理・しくみ: 窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。 高断熱・高遮熱化で冷暖房負荷の低減を行うことによる削減ポテンシャルは大きい。	新薬用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3) 原理・しくみ: 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。		
A-16-001	A-22-002	産業・業務 (業種共通)	窓ガラス- 三層Low-E複層ガラス(LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3)	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	Low-E三層ガラス(LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3) 新薬用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓ガラス 原理・しくみ: 窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。 高断熱・高遮熱化で冷暖房負荷の低減を行うことによる削減ポテンシャルは大きい。	新薬用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 三層Low-E複層ガラス(LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3) 原理・しくみ: 三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。		
A-16-001	A-22-003	産業・業務 (業種共通)	窓ガラス- 真空Low-E複層ガラス(LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3)	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	真空Low-E複層ガラス(LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3) 新薬用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓ガラス 原理・しくみ: 窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。 高断熱・高遮熱化で冷暖房負荷の低減を行うことによる削減ポテンシャルは大きい。	新薬用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 真空Low-E複層ガラス(LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3) 原理・しくみ: 真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。		
A-16-001	A-22-004	産業・業務 (業種共通)	窓ガラス- アタッチメント付きLow-E複層ガラス(LE3+Ar6+FL3(アタッチメント付き))	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	アタッチメント付きLow-E複層ガラス(LE3+Ar6+FL3(アタッチメント付き)) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓ガラス 原理・しくみ: 窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。 高断熱・高遮熱化で冷暖房負荷の低減を行うことによる削減ポテンシャルは大きい。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: アタッチメント付きLow-E複層ガラス(LE3+Ar6+FL3(アタッチメント付き)) 原理・しくみ: 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。		

No		区分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年夏版L2-Tech水準表				2016年冬版L2-Tech水準表(変更点:赤字)					
2016年度夏版	2016年度冬版(案)					クラス		測定単位		その他		クラス		測定単位	
条件	能力	単位	名称	条件	能力	単位	名称	条件	能力	単位	名称	条件	能力	単位	名称
A-16-001	A-22-005	産業・業務(業種共通)	窓ガラス- 真空ガラス (LE3+V0.2+FL3)	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごと設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	真空ガラス (LE3+V0.2+FL3) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:窓ガラス  原理・しくみ: 窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。 高断熱・高遮熱化で冷暖房負荷の低減を行うことによる削減ポテンシャルは大きい。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:真空ガラス (LE3+V0.2+FL3)  原理・しくみ: 2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。
A-16-001	A-22-006	産業・業務(業種共通)	窓ガラス- 現場施工型後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5)	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごと設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	現場施工型後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:窓ガラス  原理・しくみ: 窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。 高断熱・高遮熱化で冷暖房負荷の低減を行うことによる削減ポテンシャルは大きい。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:現場施工型後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5)  原理・しくみ: 既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減するガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。
A-16-001	A-22-007	産業・業務(業種共通)	窓ガラス- 薄型Low-E複層ガラス (LE3+Kt4+FL3)	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごと設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	薄型Low-E複層ガラス(LE3+Kt4+FL3) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:窓ガラス  原理・しくみ: 窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。 高断熱・高遮熱化で冷暖房負荷の低減を行うことによる削減ポテンシャルは大きい。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:薄型Low-E複層ガラス(LE3+Kt4+FL3)  原理・しくみ: 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。
A-XX-XXX	A-02-002	産業・業務(業種共通)	自然冷媒ターボ冷凍機	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-05-001	産業・業務(業種共通)	間接気化式冷却器	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-21-001	産業・業務(業種共通)	蒸気駆動圧縮機	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-21-002	産業・業務(業種共通)	熱回収式ねじ容積形圧縮機	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-13-001	産業・業務(業種共通)	真空管形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-06-004	産業・業務(業種共通)	木質ペレット直焚き吸収冷温水機(二重効用)	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-13-002	産業・業務(業種共通)	平板形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-07-001	産業・業務(業種共通)	パッシブ地中熱利用システム	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-12-001	産業・業務(業種共通)	ハイブリッド給湯システム(業務用)	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
A-XX-XXX	A-24-001	産業・業務(業種共通)	業務用衣類洗濯乾燥機	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
B-XX-XXX	B-04-001	産業(業種固有)	遠心脱水型コンテナ(容器)洗浄乾燥機	・設備・機器等の追加	・個社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)

No		区分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年度夏版L2-Tech水準表					2016年度冬版L2-Tech水準表(変更点:赤字)				
2016年度夏版	2015年度冬版(案)					クラス		測定単位		その他	クラス		測定単位		その他
						条件	能力	単位	名称		条件	能力	単位	名称	
B-XX-XXX	B-05-001	産業(業種固有)	内部熱交換最適化蒸留システム	・設備・機器等の追加	・ 償社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
B-XX-XXX	B-07-001	産業(業種固有)	熱回収式工業用繊維物乾燥機	・設備・機器等の追加	・ 償社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
B-XX-XXX	B-08-001	産業(業種固有)	熱回収式工業用繊維物熱処理機	・設備・機器等の追加	・ 償社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
C-01-001	C-01-001	運輸	乗用車・内燃機関自動車(ガソリン・ディーゼル車)→ガソリン・ディーゼル車(乗用車)	・設備・機器等の名称の変更	・ 当該設備・機器等の名称を、より標準的な名称に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	km/l	燃費	名称: 乗用車・内燃機関自動車(ガソリン・ディーゼル車)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	km/l	燃費	名称: ガソリン・ディーゼル車(乗用車)
C-01-002	C-01-002	運輸	商用車・重量車・内燃機関自動車(ディーゼル車/天然ガス車)→ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	・設備・機器等の名称の変更	・ 当該設備・機器等の名称を、より標準的な名称に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	km/l	燃費	名称: 商用車・重量車・内燃機関自動車(ディーゼル車/天然ガス車)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	km/l	燃費	名称: ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)
C-02-001	C-02-001	運輸	乗用車・ハイブリッド車→ハイブリッド自動車(乗用車)	・設備・機器等の名称の変更	・ 当該設備・機器等の名称を、より標準的な名称に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	km/l	燃費	名称: 乗用車・ハイブリッド車	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	km/l	燃費	名称: ハイブリッド自動車(乗用車)
C-02-002	C-02-002	運輸	商用車・重量車・ハイブリッド車→ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	・設備・機器等の名称の変更	・ 当該設備・機器等の名称を、より標準的な名称に変更する必要があると判断したため	トラクタ以外	区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 ※区分は省エネルギー法による	km/l	燃費	名称: 商用車・重量車・ハイブリッド車	トラクタ以外	区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 ※区分は省エネルギー法による	km/l	燃費	名称: ハイブリッド自動車(商用車・重量車)
C-03-001	C-03-001	運輸	乗用車・電気自動車→電気自動車(乗用車)	・設備・機器等の名称の変更	・ 当該設備・機器等の名称を、より標準的な名称に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	Wh/km	交流充電電力消費量	名称: 乗用車・電気自動車	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)	Wh/km	交流充電電力消費量	名称: 電気自動車(乗用車)
D-01-002	D-01-003	家庭	ヒートポンプ式温水床暖房	・クラス(能力)の追加	・ 当該クラスについて、一定の市場規模が見込めることを確認できたため	-	【加熱能力】 3.6kW 4.0kW 4.5kW 5.0kW 6.0kW 6.7kW 7.0kW 11.8kW	-	成績係数(COP)	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)	-	【加熱能力】 3.6kW 4.0kW 4.5kW 5.0kW 6.0kW 6.7kW 7.0kW 8.7kW 11.6kW 11.8kW	-	成績係数(COP)	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)
D-05-001	D-05-001	家庭	太陽熱集熱器対応型エコキュート	・指標(試験条件)の追加 ・指標(計算方法)の追加	・ 試験条件について、JISC9220:2011と比較し、より実用に近い試験条件であると判断したため(ただし、当該試験条件による性能を公表している例が少ないため、既存の試験条件も維持している) ・ 試験条件の変更に伴い、それに対応した計算方法を設定する必要があるため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	-	-	-	年間給湯保温効率(太陽熱部分除く) 計算方法: 年間給湯保温効率(JIS)は、1年間使用する給湯とふる保温に係る熱量+1年間に必要な消費電力量<算出時の条件> ・ 霜期高温条件:外気温(乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度90℃ ・ 冬期給湯保温モード条件:外気温(乾球温度/湿球温度)7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃ ・ 霜期給湯保温モード条件:外気温(乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度68℃ ・ 夜間消費電力量比率(JIS C 9220:2011冬期給湯保温モード条件時):80% 試験条件: ・ 年間給湯保温効率(JIS)は、JIS C 9220:2011に基づき、ヒートポンプ給湯機を運転したときの単位消費電力量あたりの給湯熱量及びふる保温熱量を表したものである。 ・ 計算に使用する値は、省エネモードである「ひかえめ」モード等で測定した値であり、実際には地域条件、運転モードの設定や使用条件により変わる。	

No		区 分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年夏版L2-Tech水準表				2016年冬版L2-Tech水準表(変更点:赤字)							
2016年度夏版	2016年度冬版(案)					クラス		測定単位		その他		クラス		測定単位		その他	
						条 件	能 力	単 位	名 称			条 件	能 力	単 位	名 称		
D-15-001	D-16-001	家庭	窓ガラス(家庭用)→ Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3) (家庭用)	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3) 新築用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:窓ガラス(家庭用)  原理・しくみ 窓ガラスは単板ガラスと複層ガラスに大別でき、複層ガラスは複数枚の単板ガラスから成りその間に中空層を設けたもので、単板ガラスに比べ断熱性能が高い。複層ガラスの断熱性能改善方法としてはLow-E化、中空層への不活性ガスの封入、真空化等がある。Low-Eガラスは、Low-E金属膜をコーティングすることで放射伝熱による熱移動量を低減したガラスであり、複層ガラスにすることでより効果的になる。 真空ガラスは、複層ガラスの中空層部が0.2mmの真空層となっているガラスである。真空層が熱の伝導と対流を防ぎ、コーティングしているLow-E(低放射)膜が放射を抑えることで高断熱性能を実現する。ガラスの厚みを変えずに複層ガラス化が可能であることから、既存単板ガラスの代替商品(既存住宅対応)として注目されている。	新築用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3)(家庭用)  原理・しくみ: 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。		
D-15-001	D-16-002	家庭	窓ガラス(家庭用)→ 三層Low-E複層ガラス (LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3)(家庭用)	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	Low-E三層ガラス (LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3) 新築用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:窓ガラス(家庭用)  原理・しくみ 窓ガラスは単板ガラスと複層ガラスに大別でき、複層ガラスは複数枚の単板ガラスから成りその間に中空層を設けたもので、単板ガラスに比べ断熱性能が高い。複層ガラスの断熱性能改善方法としてはLow-E化、中空層への不活性ガスの封入、真空化等がある。Low-Eガラスは、Low-E金属膜をコーティングすることで放射伝熱による熱移動量を低減したガラスであり、複層ガラスにすることでより効果的になる。 真空ガラスは、複層ガラスの中空層部が0.2mmの真空層となっているガラスである。真空層が熱の伝導と対流を防ぎ、コーティングしているLow-E(低放射)膜が放射を抑えることで高断熱性能を実現する。ガラスの厚みを変えずに複層ガラス化が可能であることから、既存単板ガラスの代替商品(既存住宅対応)として注目されている。	新築用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:三層Low-E複層ガラス (LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3)(家庭用)  原理・しくみ: 三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。窓ガラスによる断熱は「変動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。		
D-15-001	D-16-003	家庭	窓ガラス(家庭用)→ 真空Low-E複層ガラス (LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3)(家庭用)	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	真空Low-E複層ガラス (LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3) 新築用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:窓ガラス(家庭用)  原理・しくみ 窓ガラスは単板ガラスと複層ガラスに大別でき、複層ガラスは複数枚の単板ガラスから成りその間に中空層を設けたもので、単板ガラスに比べ断熱性能が高い。複層ガラスの断熱性能改善方法としてはLow-E化、中空層への不活性ガスの封入、真空化等がある。Low-Eガラスは、Low-E金属膜をコーティングすることで放射伝熱による熱移動量を低減したガラスであり、複層ガラスにすることでより効果的になる。 真空ガラスは、複層ガラスの中空層部が0.2mmの真空層となっているガラスである。真空層が熱の伝導と対流を防ぎ、コーティングしているLow-E(低放射)膜が放射を抑えることで高断熱性能を実現する。ガラスの厚みを変えずに複層ガラス化が可能であることから、既存単板ガラスの代替商品(既存住宅対応)として注目されている。	新築用	-	W/m2K	熱貫流率	名称:真空Low-E複層ガラス (LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3)(家庭用)  原理・しくみ: 真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。		

No		区 分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年夏版L2-Tech水準表				2016年冬版L2-Tech水準表 ( 変更点・赤字 )							
2016年度 夏版	2016年度 冬版 ( 調査 )					クラス		測定単位		その他		クラス		測定単位		その他	
						条 件	能 力	単 位	名 称			条 件	能 力	単 位	名 称		
D-15-001	D-16-004	家庭	窓ガラス ( 家庭用 ) → アタッチメント付きLow-E複層ガラス ( LE3+Ar6+FL3 ( アタッチメント付き ) ) ( 家庭用 )	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	アタッチメント付きLow-E複層ガラス ( LE3+Ar6+FL3 ( アタッチメント付き ) ) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称：窓ガラス ( 家庭用 )  原理・しくみ 窓ガラスは単板ガラスと複層ガラスに大別でき、複層ガラスは複枚状の単板ガラスから成りその間に中空層を設けたもので、単板ガラスに比べ断熱性能が高い。複層ガラスの断熱性能改善方法としてはLow-E化、中空層への不活性ガスの封入、真空化等がある。 Low-Eガラスは、Low-E金属膜をコーティングすることで放射伝熱による熱移動量を低減したガラスであり、複層ガラスにすることでより効果的になる。 真空ガラスは、複層ガラスの中空層部が0.2mmの真空層となっているガラスである。真空層が熱の伝導と対流を防ぎ、コーティングしているLow-E(低放射)膜が放射を抑えることで高断熱性能を実現する。ガラスの厚みを変えずに複層ガラス化が可能であることから、既存単板ガラスの代替商品(既存住宅対応)として注目されている。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称：アタッチメント付きLow-E複層ガラス ( LE3+Ar6+FL3 ( アタッチメント付き ) ) ( 家庭用 )  原理・しくみ： 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。		
D-15-001	D-16-005	家庭	窓ガラス ( 家庭用 ) → 真空ガラス ( LE3+V0.2+FL3 ) ( 家庭用 )	・ 設備・機器等の名称の見直し ・ 原理・しくみの変更	・ 基本的な原理・しくみが異なるものごとに設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・ 設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	真空ガラス ( LE3+V0.2+FL3 ) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称：窓ガラス ( 家庭用 )  原理・しくみ 窓ガラスは単板ガラスと複層ガラスに大別でき、複層ガラスは複枚状の単板ガラスから成りその間に中空層を設けたもので、単板ガラスに比べ断熱性能が高い。複層ガラスの断熱性能改善方法としてはLow-E化、中空層への不活性ガスの封入、真空化等がある。 Low-Eガラスは、Low-E金属膜をコーティングすることで放射伝熱による熱移動量を低減したガラスであり、複層ガラスにすることでより効果的になる。 真空ガラスは、複層ガラスの中空層部が0.2mmの真空層となっているガラスである。真空層が熱の伝導と対流を防ぎ、コーティングしているLow-E(低放射)膜が放射を抑えることで高断熱性能を実現する。ガラスの厚みを変えずに複層ガラス化が可能であることから、既存単板ガラスの代替商品(既存住宅対応)として注目されている。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称：真空ガラス ( LE3+V0.2+FL3 ) ( 家庭用 )  原理・しくみ： 2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。窓ガラスによる断熱は「受動的空調技術」とも呼ばれており、断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。		

No		区 分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年度版L2-Tech水準表				2016年度版L2-Tech水準表( 変更点: 赤字 )							
2016年度 夏版	2016年度 冬版 ( 素案 )					クラス		測定単位		その他		クラス		測定単位		その他	
夏版	冬版 ( 素案 )					条 件	能 力	単 位	名 称	条 件	能 力	単 位	名 称	条 件	能 力	単 位	名 称
D-15-001	D-16-006	家庭	窓ガラス( 家庭用 ) → 現場施工後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5) ( 家庭用 )	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理、しくみが異なる ものごとに設備・機器等を設定し たほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、 それに対応した説明に変更する必 要があると判断したため	現場施工後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓ガラス ( 家庭用 )  原理・しくみ 窓ガラスは単板ガラスと複層ガラスに大別で き、複層ガラスは複枚状の単板ガラスから成 りその間に中空層を設けたもので、単板ガラ スに比べ断熱性能が高い。複層ガラスの断熱 性能改善方法としてはLow-E化、中空層へ の不活性ガスの封入、真空化等がある。 Low-Eガラスは、Low-E金属膜をコーテ ィングすることで放射伝熱による熱移動量を低 減したガラスであり、複層ガラスにすること でより効果的になる。 真空ガラスは、複層ガラスの中空層部が 0.2mmの真空層となっているガラスであ る。真空層が熱の伝導と対流を防ぎ、コー ティングしているLow-E(低放射)膜が放射を 抑えることで高断熱性能を実現する。ガラス の厚みを変えずに複層ガラス化が可能である ことから、既存単板ガラスの代替商品(既存 住宅対応)として注目されている。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 現場施工後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5) ( 家庭用 )  原理・しくみ 既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼るこ とで放射による熱移動量を低減するガラス。断熱を 行うことによって、より少ないエネルギーで空調 を行うことができるようになる。主に住宅等に導 入されている。		
D-15-001	D-16-007	家庭	窓ガラス( 家庭用 ) → 薄型Low-E複層ガラス (LE3+K4+FL3) ( 家庭用 )	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理、しくみが異なる ものごとに設備・機器等を設定し たほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、 それに対応した説明に変更する必 要があると判断したため	薄型Low-E複層ガラス(LE3+K4+FL3) リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓ガラス ( 家庭用 )  原理・しくみ 窓ガラスは単板ガラスと複層ガラスに大別で き、複層ガラスは複枚状の単板ガラスから成 りその間に中空層を設けたもので、単板ガラ スに比べ断熱性能が高い。複層ガラスの断熱 性能改善方法としてはLow-E化、中空層へ の不活性ガスの封入、真空化等がある。 Low-Eガラスは、Low-E金属膜をコーテ ィングすることで放射伝熱による熱移動量を低 減したガラスであり、複層ガラスにすること でより効果的になる。 真空ガラスは、複層ガラスの中空層部が 0.2mmの真空層となっているガラスであ る。真空層が熱の伝導と対流を防ぎ、コー ティングしているLow-E(低放射)膜が放射を 抑えることで高断熱性能を実現する。ガラス の厚みを変えずに複層ガラス化が可能である ことから、既存単板ガラスの代替商品(既存 住宅対応)として注目されている。	リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 薄型Low-E複層ガラス(LE3+K4+FL3) ( 家 庭用 )  原理・しくみ 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜 をコーティングすることで放射による熱移動量を 低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガ ラス部分のみを既存サッシに取り付けることが できる。断熱を行うことによって、より少ないエ ネルギーで空調を行うことができるようになる。主 に住宅等に導入されている。		
D-15-002	D-16-008	家庭	窓→ Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理、しくみが異なる ものごとに設備・機器等を設定し たほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、 それに対応した説明に変更する必 要があると判断したため	( 項目多数のため省略 ※2016年度夏 版L2-Tech水準表参照 )	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓  原理・しくみ: 窓は部材部分のサッシと窓ガラスで構成され ており、サッシは金属製(主にアルミ)、樹脂 製、木製に分類される。 樹脂サッシは、アルミサッシに比べ熱伝導率 が約1000分の1の樹脂を採用したサッシで ある。また、室内側の結露の発生を軽減や断 熱性の向上を目的にアルミ製(室外側)と樹脂 製(室内側)を一体化したアルミ樹脂複合サ ッシもある。	( 項目多数のため省略 ※2016年度冬 版L2-Tech水準表( 素案 )参照 )	-	W/m2K	熱貫流率	名称: Low-E複層ガラス・樹脂サッシ  原理・しくみ 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜 をコーティングすることで放射による熱移動量を 低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合せ た窓。		
D-15-002	D-16-009	家庭	窓→ Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複 合サッシ	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理、しくみが異なる ものごとに設備・機器等を設定し たほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、 それに対応した説明に変更する必 要があると判断したため	( 項目多数のため省略 ※2016年度夏 版L2-Tech水準表参照 )	-	W/m2K	熱貫流率	名称: 窓  原理・しくみ: 窓は部材部分のサッシと窓ガラスで構成され ており、サッシは金属製(主にアルミ)、樹脂 製、木製に分類される。 樹脂サッシは、アルミサッシに比べ熱伝導率 が約1000分の1の樹脂を採用したサッシで ある。また、室内側の結露の発生を軽減や断 熱性の向上を目的にアルミ製(室外側)と樹脂 製(室内側)を一体化したアルミ樹脂複合サ ッシもある。	( 項目多数のため省略 ※2016年度冬 版L2-Tech水準表( 素案 )参照 )	-	W/m2K	熱貫流率	名称: Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ  原理・しくみ 複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜 をコーティングすることで放射による熱移動量を 低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み 合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製 ( 室外側 ) と樹脂製 ( 室内側 ) のサッシを室内側 の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一 体化したものである。		



No		区 分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年度版L2-Tech水準表						2016年度版L2-Tech水準表(変更点:赤字)					
2016年度 夏版	2016年度 冬版 (素案)					クラス		測定単位		その他		クラス		測定単位		その他	
						条 件	能 力	単 位	名 称			条 件	能 力	単 位	名 称		
D-15-002	D-16-010	家庭	窓→ 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごと設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表参照)	-	W/m2K	熱貫流率	名称：窓  原理・しくみ： 窓は部材部分のサッシと窓ガラスで構成されており、サッシは金属製(主にアルミ)、樹脂製、木製に分類される。 樹脂サッシは、アルミサッシに比べ熱伝導率が約1000分の1の樹脂を採用したサッシである。また、室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的にアルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)を一体化したアルミ樹脂複合サッシもある。	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	-	W/m2K	熱貫流率	名称：三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ  原理・しくみ： 三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。		
D-15-002	D-16-011	家庭	窓→ 三層Low-E複層ガラス、アルミ樹脂複合サッシ	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごと設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表参照)	-	W/m2K	熱貫流率	名称：窓  原理・しくみ： 窓は部材部分のサッシと窓ガラスで構成されており、サッシは金属製(主にアルミ)、樹脂製、木製に分類される。 樹脂サッシは、アルミサッシに比べ熱伝導率が約1000分の1の樹脂を採用したサッシである。また、室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的にアルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)を一体化したアルミ樹脂複合サッシもある。	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	-	W/m2K	熱貫流率	名称：三層Low-E複層ガラス  原理・しくみ： 三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。		
D-15-002	D-16-013	家庭	窓→ 真空ガラス・樹脂サッシ	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごと設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	真空ガラス(LE3+V0.2+FL3)リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称：窓  原理・しくみ： 窓は部材部分のサッシと窓ガラスで構成されており、サッシは金属製(主にアルミ)、樹脂製、木製に分類される。 樹脂サッシは、アルミサッシに比べ熱伝導率が約1000分の1の樹脂を採用したサッシである。また、室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的にアルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)を一体化したアルミ樹脂複合サッシもある。	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	-	W/m2K	熱貫流率	名称：真空ガラス・樹脂サッシ  原理・しくみ： 2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスと樹脂サッシを組み合わせた窓。		
D-15-002	D-16-014	家庭	窓→ 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	・設備・機器等の名称の見直し ・原理・しくみの変更	・基本的な原理・しくみが異なるものごと設備・機器等を設定したほうがよいと判断したため ・設備・機器等の見直しに伴い、それに対応した説明に変更する必要があると判断したため	真空ガラス(LE3+V0.2+FL3)リフォーム用	-	W/m2K	熱貫流率	名称：窓  原理・しくみ： 窓は部材部分のサッシと窓ガラスで構成されており、サッシは金属製(主にアルミ)、樹脂製、木製に分類される。 樹脂サッシは、アルミサッシに比べ熱伝導率が約1000分の1の樹脂を採用したサッシである。また、室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的にアルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)を一体化したアルミ樹脂複合サッシもある。	(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	-	W/m2K	熱貫流率	名称：真空ガラス・アルミ・樹脂複合サッシ  原理・しくみ： 2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。		
D-XX-XXX	D-01-002	家庭	地中熱ヒートポンプ冷暖水システム(ハイブリッド式)	・設備・機器等の追加	・借社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)		
D-XX-XXX	D-02-004	家庭	ヒートポンプ冷暖水システム	・設備・機器等の追加	・借社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)		
D-XX-XXX	D-16-012	家庭	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	・設備・機器等の追加	・借社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)		
D-XX-XXX	D-17-003	家庭	真空断熱材	・設備・機器等の追加	・借社、または業界団体より追加提案があり、L2-Tech水準表へ掲載することが妥当と判断したため	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)	(2016年度冬版L2-Tech水準表(素案)参照)		



No		区 分	設備・機器等の名称	変更・追加の概要	変更・追加の理由	2016年度夏版L2-Tech水準表				2016年度冬版L2-Tech水準表(変更点:赤字)							
2016年度夏版	2016年度冬版(案)					クラス		測定単位		その他		クラス		測定単位		その他	
						条 件	能 力	単 位	名 称			条 件	能 力	単 位	名 称		
E-01-001	E-01-001	エネルギー転換	固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	・クラス(能力)の追加	・当該クラスについて、一定の市場規模が見込めることを確認できたため		【出力】 200kW以下	%	発電効率	(項目多数のため省略 ※2016年度夏版L2-Tech水準表参照)					(項目多数のため省略 ※2016年度冬版L2-Tech水準表(案)参照)		
E-04-001	E-04-001	エネルギー転換	温水熱源小型バイナリー発電設備	・原理・しくみの変更 ・クラス(能力)の変更	・当該設備・機器等の原理・しくみについて、より正確な説明に変更する必要があると判断したため ・500kW未満のクラスにおいて、用途等の違いがみられるケースが多いことが判明したため		【出力】 200kW未満	%	送電線発電効率	原理・しくみ： 温水の熱エネルギーを熱交換器(蒸発器)を介して低沸点の作動媒体(二次媒体)に伝え、これを沸騰させた蒸気でタービンを駆動する発電方式。				【出力】 3.0kW以下 3.0kW超6.5kW以下 6.5kW超45.0kW以下 45.0kW超	原理・しくみ： バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うので、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。モータには永久磁石同期モータを使用している。仕組みとしては、生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回かせ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電が終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。温水熱源小型バイナリー発電は、熱源として温水を利用する。		